

学習内容報告書 フォーマット

学校名	呉市立蒲刈小学校
授業者	末永 深雪

1. 単元計画

1-1. 単元名

見つけよう！わたしたちの蒲刈

1-2. 学年

5・6年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

生活科 総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

「蒲刈の自慢」について、まずは知っていることを出し合い、なぜそれが自慢といえるかをその根拠について調べる計画を立てる。瀬戸内海と日本海の違いに目を向けたり、実際にたこ漁を体験したり、海の生き物を観察したり、漁業に携わる人に見学やインタビューをしたりすることを通して地域の自然やものづくりの面白さを知り、蒲刈に愛着をもち、地域の一員として自分ができることを実践しようとする態度を養う。また、地域の人々の努力や工夫に気付き、これからの自己の生き方を考えるきっかけとなる学習である。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校は瀬戸内海に浮かぶ蒲刈島にある。蒲刈島は果樹栽培（主にミカンとスモモ）と弥生時代の製塩法「藻塩焼き」を現代に蘇らせた古代塩の生産地としても知られるようになっている。町内には漁業組合もあり、瀬戸内海でとれるタコ・イカ 真鯛・かきご・オコゼなどの漁業に従事している人もいる。

児童はこれまでに美しい自然環境を守るための海岸清掃、島内沿岸の生物についての学習をしてきた。果樹栽培や藻塩関連の学習は充実しているが漁業に関する学習は十分とは言えない。そこで、日本海と瀬戸内海との違いを体感したり、蒲刈島の海辺の生き物について理解を深めたりするために本単元を設定した。

日本海に行き、瀬戸内海との違いを考え、自分たちの住んでいる島を海から観察するとともに、海岸に生息する生物について学んだり身近な海洋環境に触れたりすることで自分たちの島について再認識する。また、蒲刈の特産物に託す地域の人たちの思いや願いを知ることで、地域の人たちと協同してふるさとに貢献しようとする気持ちを育てる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

A 知識・技能

探求課題に関わる種々な環境には様々な特徴があることに気付く。

B 思考力・表現力・判断力

調べたい課題を設定し、必要な情報を比較したり、関連づけたりして整理・分析し、相手を意識して表現できる。

C 自己の生き方を考える力

地域の人の努力や工夫に気づき、これからの自己の生き方を考える。

1-7. 単元の展開（全16時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	<p>○ 蒲刈の町の自慢について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が自慢か ・なぜそう思うのか <p>○ 自慢の中から調べたいことを考え、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藻塩 ・海の生き物 ・みかん 	<p>評価</p> <p>B：「蒲刈の町の自慢」といえる根拠について調べる方法を考え、実際に観察や見学，体験，インタビュー等を行うための計画を立てる。</p> <p>使用教材 「とびしま探訪」</p>
6	<p>○ 日本海について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本海と瀬戸内海の違いを調べよう。 日本海は遠浅で波が荒い。 海の色が違う。 島がない。 海洋生物が違う。 海洋漂着物は外国からのものが多い。 	<p>評価</p> <p>B：日本海と瀬戸内海のちがいについて調べる計画を立て、必要な情報を得ている。</p> <p>B：調べたことを整理分析してまとめている。</p> <p>外部連携 しまね海洋館アクアス</p>
6	<p>○ 瀬戸内海について調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた生き物を，図鑑やインターネットで調べよう。 ・蒲刈島を海の上から眺めてみよう。 ・「たこ漁」を体験してみよう。 	<p>評価</p> <p>B：実際に行動して必要な情報を得ている。 (見学ノート)</p> <p>B：蒲刈の生き物について蒲刈の自然環境との関係で考えたことを，整理分析してまとめている。(発表原稿・パネル等)</p> <p>外部連携 蒲刈漁協</p>
2	<p>○ 自分たちにできることを考えて発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「未来を拓く100の出会い」としてプリントにまとめよう。 	<p>評価</p> <p>B：海の生き物の豊富さや，自然環境を生かした藻塩やたこ漁の工夫や，携わる人々の思いを知り，蒲刈の自慢について考え，自分にできそうなことを考えている。</p>

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

たこ漁を体験し、たこ漁に関わる働く人の仕事を理解するとともに、働く人の思いや願いを考えることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
1 本時のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">たこ漁を体験し、たこ漁に関わる人の思いを知ろう。</div>	
2 たこ漁を体験する。	○安全に気をつけてたこ漁をする。
3 たこ漁を行う蒲刈漁協の方々のお話を聞き、仕事に対する思いを聞く。	B：実際に行動して必要な情報を得ている。 (見学ノート)
4 振り返りをする。	○仕事の大変さや楽しさを聞き取り、蒲刈漁協で働く人の生き方を考える。

3. 今回の活動の自己評価

○瀬戸内海と日本海の海の様子や水生生物の生態について実際に見たり触れたりすることで生きた学習となった。

○アクアスで海岸漂着物を実際に見たり話を聞いたりすることで、現在大きな問題となっている海洋汚染の問題点について考えることができた。

○地域の漁業である「たこ漁」を体験し、実際にタコに触れたたこ漁に従事する人の話を聞くことで、海の生き物の理解が深まり、漁業をすることの楽しさや苦勞について知ることができた。

○地元の漁協の方は地元の児童が来て、自分たちの仕事を体験してくれたことを大変喜んでおられた。児童は地元で素晴らしい産業があることを体験することで「ふるさと蒲刈」をもっと好きになり誇りに思うことができたとともに、地域の方との交流を深めることができた。

4. 今後の課題

- 発達段階に応じて、地域の漁業をどう教材かしていくか丁寧に計画を立て、検証していく必要がある。
- 蒲刈の海洋教育には大変有意義であったが、費用がかかりすぎるので継続して体験活動をするのはできにくい。野外活動の中のプログラムに取り入れるなど、継続して取り組める体制づくりをすることが必要である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 個人名が出ないように配慮してほしい。